

JLTA Newsletter No. 49

日本言語テスト学会

The Japan Language Testing Association

JLTA Newsletter No. 49 発行代表者: 渡部良典 2020 年 (令和 2 年) 9 月 30 日発行
発行所: 日本言語テスト学会 (JLTA) 事務局
〒036-8560 青森県弘前市文京町 1
弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター
横内裕一郎研究室 TEL: 0172-36-2111 (代表)
e-mail: u16yoko@gmail.com URL: <http://jlta.ac>



コロナ禍でのデジタルシフト

平井 明代 (筑波大学)

新型コロナウイルスの感染収束の気配はあるものの、未だ予断を許さない状況で、罹患された皆様には心からお見舞いを申し上げます。令和 2 年ほど、生活が激変した年はありません。新型コロナウイルスがあつという間に世界中に蔓延し、史上初めてとなるオリンピックの大会延期を余儀なくされました。4 月には緊急事態宣言が出され、経済活動の停滞で倒産のニュースが相次ぐ中、経済的困窮に陥った学生さんも少なからずいるということで心が痛みます。

教員にとっての大きな変化と言えば、なんといっても授業のオンライン化ではないでしょうか。FD 研修や講演会で知識と経験が共有されたことで、Zoom や Teams によるオンライン授業だけでなく、Stream で動画を配信するオンデマンド型授業も進みました。私はオンデマンド動画教材の作成は得意ではないので、オンライン授業と筆記課題が多いのですが、先生方の中には、あらかじめ無駄なポーズを省き、1.25 倍速で配信することで、学生の集中力を削がない工夫をされている先生もおられました。従来から利用していた manaba による小テスト機能を加えると、オンライン授業も悪くないなと感じています。対面授業では、学生を指名すると、友達と顔を見合わせて笑ってごまかす、一言「わかりません」と返答するだけといったことが少なからずありましたが、オンライン授業では、そのような逃げ場がないからか、より自分で考えて発言する傾向があるように思います。

オンデマンド型を含めたオンラインによる英語学習に関して、学生を対象としたある調査によると、コロナ収束後は、「対面学習とオンライン学習の両方を同じ程度に活用したほうが良い」という意見が大半 (65%) を占めていました。これは、それぞれの授業形態の強みを実感した結果だと思われます。続いて、「対面での英語学習・練習方法が良い」(23%) が、「オンライン学習の方が良い」(12%) を上回っていました。その最大の理由は、「人間的な繋がりが持てないこと」と、「順調に学習を進めるための自己規律を維持するのが難しいこと」でした。実際に会って、行動を共にしながら学ぶことの重要性を再認識するとともに、気軽に友人と会えない現状に、ストレスを抱えていることが窺えます。

教員と学生双方のデジタルリテラシーが一気に進んだことで、オンラインツールの利用による研究が盛んになってきています。夏に行われたオンラインによる JALTCALL2020 大会では、さまざまなツールを駆使した興味深い発

表が数多く見られました。いくつか紹介すると、PeerEval を使って、学生同士で評価やコメントを簡単にできるようにすることで、ピア評価を活性化させる研究、教育実習生の授業を、観察しながらリアルタイムでフィードバックができるように構築したシステムを使った実践研究、Moodle プラグインで様々な機能を追加し、スピーキング活動から採点までを自動化した学習管理システム（LMS）の研究など、「オンライン」に加えて、「リアルタイム」「自動化」がキーワードとなっていました。今後も IT の発達とともに、アプリの質の向上とニーズに合った LMS の開発が進み、大いに学習や評価に活かされていくことでしょう。

このように、技術が発達し、人の価値観が変化していく中で、教育機関はバランスの良いデジタルシフトを行い、柔軟性のある授業形態やより効率的なワークシステムへと変化していくことが望めます。さて、9 月に予定していた JLTA の研究大会も 12 月 12 日にオンラインで開催されることとなりました。わざわざ現地に行かなくとも、自宅のパソコンでじっくり聞けるのがオンラインの強みでもあります。多くの発表者と参加者を迎えられることを願っています。

**2019 年度日本言語テスト学会
最優秀論文賞**

受賞者から

**Message from the Recipient of
The 2019 JLTA Best Paper Award**

受賞者 加藤 剛史（筑波大学大学院）

この度、日本言語テスト学会第 10 回最優秀論文賞に拙論をご選出いただき、大変光栄に存じます。洞察に満ちた建設的なご助言をいただいた査読者の皆様、そして学会や日々の研究活動に

おいてご指導いただいたすべての先生方に、心より感謝申し上げます。

拙論「Constructing Measurement Models of L2 Linguistic Complexity: A Structural Equation Modeling Approach」は、L2 学習者のパフォーマンス測定における主要な次元の 1 つである「複雑さ(complexity)」の測定モデルの精緻化を目的としたものです。

複雑さは、目標言語使用の多様性・洗練性を主な測定領域とする構成概念として、多くの L2 研究で取り上げられてきました。しかしながら、当該概念の定義の言及範囲の広さから、研究間で扱われる言語指標が一貫しない、あるいは、ごく一部しか測定されないといった状況が続いていました。この原因は、複雑さという概念の、ある程度の全体像が十分に共有されていないことと多数ある言語指標の分析の困難さにあると考えました。

そこで、本研究では最初に、従来研究で主眼が置かれてきた複雑さの領域を概観し、定義に照らして測定が不十分であると考えられる領域をまとめました。次に、自然言語処理技術を応用した、複雑さの言語指標の自動解析器を導入しました。そして、日本人学習者の英作文を分析対象に、意図した複雑さの概念構造が得られるかどうかを構造方程式モデリングによって検証した結果、十分な適合度を得ました。また、当該モデルを用いた英作文の評点の予測精度は、従来研究を総合したモデルに比べて優れていました。

上記の結果から、複雑さに対する理解の深化とその測定方法の改善、という当初の目的を一定程度果たすことができたのではないかと考えています。一方で、本研究の結果が他の母語話者や、他の目標言語へと一般化可能であるかは未知数です。し、流暢さや正確さといった他の概念との関係性など、探究すべきテーマは枚挙に遑がありません。今後も、学習者の L2 パフォーマンスに潜む言語学習の手がかりと真摯に向き合う研究者を目指して、研究に邁進して参ります。

書評
Article Reviews

Isbell, D, R., & Kremmel, B. (2020).
Test review: Current options in at-
home language proficiency tests for
making high-stakes decisions.
Language testing.
Advance online publication.
doi:10.1177/0265532220943483

The current pandemic situation has prevented most language proficiency exams from being administered worldwide. Some exams have suspended or reduced testing at test centers; other test providers have offered at-home test administration. Isbell and Kremmel's article offers information about at-home high-stakes language testing options for test-takers who must take special measures in the current pandemic situation. The article covers seven at-home proficiency tests and discusses key issues with these tests, mainly in terms of technological demands and exam security. It also addresses the potential of at-home testing in the post-pandemic era.

This article highlights ACTFL proficiency exams, the Duolingo English Test, the IELTS indicator, LanguageCert, TEF Express, the TOEFL iBT Special Home Edition, and Versant. These tests include those that, from their inception,

were designed for at-home administration as well as those that have rapidly switched delivery medium and administration conditions to meet the current pressing needs. The article covers each test's purpose, length and administration, scoring, security measures, technology requirements, author/publisher, and fees.

Isbel and Kremmel point out that, thanks to internet-based testing platforms, examinees do not need to prepare high-end computer software, and basic audio-visual equipment seems sufficient for taking most tests. Exam security is another concern in high-stakes decision making, but countermeasures against security threats have been implemented by using online monitoring system and device restrictions. Most of these tests feature sufficient security measures such as remote proctoring systems, ID booking or signing non-disclosure agreements.

Many testing companies quickly took action towards offering at-home exams in response to the current crisis. Thus, the information in this article is very useful for readers facing decisions about which at-home proficiency tests should be selected. However, there are issues concerning technological environments and the validity of the tests themselves. In Japan, some test takers lack access to fast and reliable Internet. Thus, we need to carefully consider the technological environments of prospective examinees. In addition,

regarding validity, there remains controversy as to whether digitally-delivered test tasks are relevant to real-world language use and whether automatic machine scoring correlates with human scoring. Looking beyond the current pandemic, fair access to at-home high-stakes language tests must be taken into consideration.

**Reviewed by Kei MIYAZAKI
(Tokai University)**

日本言語テスト学会著作賞の 設立について

前回の JLTA Newsletter No. 48 でもお伝えしましたが、周知のため再度お知らせいたします。

著作賞設立の意義

日本言語テスト学会 (The Japan Language Testing Association [JLTA]) の設立目的の一つは、「わが国の外国語教育における測定と評価に関連する実践と理論の改善及び発展」である。入試改革への関心が集まる現在、JLTA 会員のみにならず、研究に従事する者、教育関係者、さらに一般の方にも言語の測定と評価への知見を普及することが望まれる。そこで、外国語教育における測定と評価、関連する分野（教育・統計・政策等）の研究や実践についてまとめられた書籍を出版した著者（グループを含む）を表彰する機会を設け、研究や実践の成果を広める努力を促すことで上述の目的の達成を目指すものとする。

日本言語テスト学会著作賞規程（案）

1. 目的

本賞は、日本言語テスト学会（JLTA）会員による優れた著作を表彰することにより、会員の著作物の出版を奨励し、外国語教育における測定と評価（テスト理論・テストの開発・妥当性の検証など）広く言語テストに関わるもの）に関連する研究や実践を広く一般に普及することを目的とする。

名称を、日本言語テスト学会著作賞（英語名：The Japan Language Testing Association Best Book Award [略記：The JLTA Best Book Award]）とする。

2. 表彰の対象

表彰の対象は、言語テストに関連する書籍（市販されたあるいは図書館などでの公開が保証されているものとする。）とし、本会会員（推薦された時点、審査される時点、表彰される時点のすべての時点で会員であることを条件とする。賛助会員は含まない。）を 1 名以上含む個人またはグループが、著者（編者）であるものとする。また、言語テストに隣接する分野（例、教育学、第二言語習得、心理統計）の内容を中心とした書籍のうち、測定や評価に関連する内容を含んだものの、翻訳書、論文集、複数の論文で構成される書籍なども対象とする。研究を扱った書籍の場合、新規の理論を扱ったものだけでなく、既存の研究の再現を中心に扱った書籍も対象とする。改訂版や増補版の場合は、初版から直前の版までのいずれもが本賞を受けていない場合は、その対象とする。

選考の対象となる書籍は出版から 3 年以内のものを原則とするが、特別の理由がある場合、3 年より前に刊行された書籍も選考の対象とする。ただし、推薦者はその理由を詳細に著作賞選考委員会に報告する必要がある。

測定・評価に関する研究・実践の対象となる言語は問わないが、書籍は日本語・英語で執筆されたものに限る。

3. 授賞著作決定までの過程

- (1) 他薦を基本とし、本会会員に推薦を呼びかける。
- (2) 本会会員（会員歴 3 年以上であること。）が、推薦したい書籍を対象に、毎年 3 月 31 日までに著作賞選考委員会（英語名：The Best Book Award Selection Committee）に推薦する。著作賞選考委員（委員長除く）も推薦できる。推薦できる書籍は、推薦者自身が執筆や編集に関わっていないもので、1 人につき 1 件のみの推薦に限る。推薦は、著作賞選考委員会委員長（以下、著作賞選考委員長）に推薦書をメールで送る形で行う。推薦書には、学会ホームページ上に掲載されているテンプレートを使い、書籍名、著者（编者）名と 200 字程度の推薦理由を記入する。また、2 で規定された 3 年より前に刊行された書籍を推薦する場合、推薦の理由を 400 字程度で記入する。
- (3) 著作賞選考委員長は、推薦のあった書籍のリストを事務局に通達する。推薦書籍が多数の場合は、推薦文を参考に著作賞選考委員長が表彰対象を一次選定することもある。
- (4) 事務局は推薦された書籍を必要部数購入し、それらを著作賞選考委員に郵送する。
- (5) 著作賞選考委員は推薦された書籍を査読し、表彰に値する書籍であるかを判断し、所定の用紙に所見を記入する。著作賞選考委員長が結果を取りまとめ、表彰の対象となる書籍を決定する。
- (6) 著作賞選考委員会は、選考結果（受賞候補者）を理事会に報告する。事務局は受賞候補者（代表者）に受賞を受諾するか意思確認を行う。受賞候補者（代表者）が辞退した場合は、該当者なしとするのか、あるいは候補者を再選出するのかを著作賞選考委員会にて審議する。理事会は著作

賞選考委員会からの結果報告を受けてこれを審議し、当該年度の著作賞受賞者を最終決定する。

- (7) 事務局は、受賞候補者（代表者）に全国研究大会にて表彰状と記念品を授与する。また、学会ホームページや Twitter、Newsletter、各種広報誌等を通じ、結果を公表する。

4. 選考の規準と基準

- (1) 言語能力の測定や評価、またはそれに隣接する分野を取り扱った書籍であること。
- (2) 言語テストの知見を研究者、教員、一般の読者に広めるものであり、アセスメント・リテラシーの普及に大きく貢献するものであること。
- (3) 運用上の詳細は、著作賞選考委員会にて決定する。

5. 著作賞選考委員会の構成と任期

- (1) 著作賞選考委員会は、委員長 1 名、副委員長 1 名、委員若干名で構成する。
- (2) 会則に則り、著作賞選考委員長・副委員長・委員の各任期は 1 期 2 年とし、再任は妨げない。ただし、委員・副委員長・委員長時代を含めて最長 10 年とする。
- (3) 著作賞選考委員長・副委員長・委員は、就任する前年度の理事会ならびに総会によって承認を受けるものとする。

6. その他

- (1) 毎年、原則として 1 件に授賞する。
- (2) 受賞した個人及びグループは、その後 3 年間は再度推薦を受けることはできない。ただし、共著の場合に代表著者が異なり、分担執筆者の半数が入れ替わっている場合はこの限りではない。
- (3) 著作賞選考委員が査読に使用した図書は終了後、著作賞選考委員に進呈する。

- (4) 当該年度も含めて今までの日本言語テスト学会最優秀論文賞の受賞と本賞の受賞は競合しない。
- (5) 本規程の改廃は、著作賞選考委員会並びに理事会の承認を受けるものとする。

付則

2019年9月11日の役員会にて承認。2020年4月1日より施行。

以上

JLTA 事務局より連絡
Messages from JLTA Secretariat

JLTA の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。ご質問・ご意見等ございましたらお寄せください。

- (1) 2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で全国研究大会の開催を延期し、12月に遠隔にて開催予定です（Zoom 使用予定）。なお、今年度はワークショップ・シンポジウムの開催はありません。また、現在発表の募集を行っております。詳細は下記の通りです。
- 【日時】2020年12月12日（土）
- 【場所】オンライン開催（Zoom）
- 【テーマ】言語テストの過去・現在・未来
- 【応募締め切り】2020年10月15日（木）
- 【参加費】無料
- 【日程】【参加申込】決まり次第お知らせします

- (2) 2020年度研究例会は2020年11月22日（日）と2021年2月14日（日）に開催予定です。

第51回研究例会

【日時】2020年11月22日（日）10時～17時

【場所】オンライン開催（Zoom 使用）

【テーマ】英語スピーキング評価における採点方法の改善（Part 1）

【使用言語】英語

【概要】スピーキング評価において、タスク・ルーブリック・採点は特に考慮すべき要素です。本例会では、採点者や採点トレーニングなどの採点方法に焦点を当て、海外の教室内評価や大規模テストを含む様々な文脈においてスピーキング評価に携わる方から運用や課題についてお話を伺い、今後の日本のスピーキング評価について議論します。

【定員】接続の関係で、参加者は先着順150名（原則 JLTA 枠 80 名、一般枠 70 名）に限らせていただきます。

【主催】日本言語テスト学会
(<http://jlta.ac>)

【共催】小泉利恵科研プロジェクト（基盤研究(C) 20K00894：「高校の英語授業内スピーキング評価における「信頼性確保のための採点指針」の作成」）

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20K00894/>

【講演者】

Jason Fan (University of Melbourne, Australia), Jin Yan (Shanghai Jiao Tong University, China)

Martin East (University of Auckland, New Zealand)

Chris Davison (University of New South Wales, Australia)

タイトル等詳細はメーリングリストや JLTA ウェブサイトをご覧ください。

【参加費】無料

【申し込み】参加を希望される方は、11 月 14 日（土）までに下記の申し込みフォームにてお申し込みください。（定員 150 名）
<https://forms.gle/KFmH9wg4g5TZEq3h7>

【問い合わせ先】 深澤真（琉球大学）
ves05671@nifty.ne.jp

第 52 回研究例会

【日時】2021 年 2 月 14 日（日）午前 9 時 30 分～17 時

【場所】オンライン開催（Zoom 使用）

【テーマ】英語スピーキング評価における採点方法の改善（Part 2）

【使用言語】日本語

【概要】【定員】【主催】【参加費】第 51 回研究例会と同じ

【内容】講演、プロジェクト報告

【講演者】

井上千尋

(University of Bedfordshire)

酒井英樹（信州大学）

平井明代（筑波大学）・横内裕一郎

（弘前大学）

タイトル等詳細はメーリングリストや JLTA ウェブサイトをご覧ください。

【申し込み】参加を希望される方は、2 月 4 日（木）までに下記の申し込みフォームにてお申し込みください。（定員 150 名）
<https://forms.gle/8R4ZrzwMZrvdEAVA>

【問い合わせ先】 深澤真（琉球大学）
ves05671@nifty.ne.jp

(3) 『日本言語テスト学会誌』第 23 号は今冬

発行予定です。学会誌の論文等は、J-STAGE(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jltajournal>) にて同時期に一般公開されます。

『日本言語テスト学会誌』は、狭義のテストングに関するものだけではなく、広く評価に関する論文を募集しています。教育実践やプログラム評価に関するものなど、評価全般に関わる実験・知見を含みますので、どうぞふってご応募ください。

(4) 日本言語テスト学会では、2019 年度より「オンライン投稿審査システム」を導入しました。このシステムは、2014 年度から学会業務の一部を委託してきた国際文献社が持つもので、投稿と査読の過程がオンライン上に記録されます。さらに、学会誌の一層の質の向上を目指して、既に出版された論文のデータベースを使った投稿論文の剽窃の確認や、著者による論文の匿名化の再確認もシステムの中で行います。2021 年度もこのシステムを使って投稿を受け付けます。詳細は、次の通りです。

オンライン投稿審査システムに関する詳細

1. システムのウェブサイト

<https://iap-jp.org/jlta/journal/login>

2. 次回投稿期間

2021 年 4 月 7 日～2021 年 5 月 7 日
この期間しか投稿ができませんのでご注意ください。

3. 学会誌執筆要領・テンプレート

最新の執筆要領やテンプレートをご参照ください。

http://jlta2016.sakura.ne.jp/?page_id=62

4. 問い合わせ先

日本言語テスト学会誌 編集事務局

jlta-edit@bunken.co.jp

- (5) **JLTA 研修講師派遣事業**が2017年度から始まりました。本事業は、テスト利用・作成に関わる研修を行う機関・団体に JLTA より講師派遣を行うものです。2020年4月に講師リストの更新が行われました。詳細は下記 URL からご確認ください。会員の皆様におかれましては、言語テストにご興味のある方々へご周知くださいますようお願いいたします。

ウェブサイト：

http://jlta2016.sakura.ne.jp/?page_id=1154

- (6) **J-STAGE** (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jltajournal>) における『日本言語テスト学会誌』の**アクセス状況** (2019年8月～2020年7月) について報告します。資料トップへのアクセス数は10242件(昨年：5202件)、PDFへの直接アクセスは11695件(昨年：5727件)と大幅に増加しています(ただし、昨年までは9ヶ月のアクセス数合計)。

国別アクセス数は、昨年度と変わらずアメリカからのアクセスが圧倒的に多く、続いて日本、中国という順でした。PDFへの直接リンク数だけで言えばイギリスが3位に入ります。書誌事項にアクセスした回数が10回を超える国は27で、PDFにアクセスした回数が10回を超える国は49にもなりました(うち、12カ国が100回以上PDFにアクセスしています)。これまでとは集計方法が異なるため単純には比較できませんが、大幅な増加であると言えるでしょう。

ダウンロード先とアクセス回数

旧：2018/11～2019/7			
	国名	書誌事項	PDF
1	米	2392	2366
2	日	1176	1467
3	中	830	191
4	独	231	200
5	仏	140	22
6	英	80	84
7	露	64	83
8	奥	59	39
9	韓	55	33
10	越	54	60

新：2019/08～2020/07			
	国名	書誌事項	PDF
1	米	3826	3969
2	日	2468	2779
3	中	1160	246
4	韓	808	76
5	独	683	405
6	仏	304	72
7	露	223	44
8	立	136	27
9	英	96	1099
10	加	59	270

- (7) 本学会ウェブサイトには、Web 公開委員会が公開を進めてくださった、**チュートリアルとワークショップ・ビデオ**があります。どうぞご活用ください。

WORKSHOP VIDEO/WEB TUTORIAL

チュートリアル (Tutorial, 日本語)

- ・「よい」テストの条件 (What is a 'good' test?: validity, reliability, and practicality)
- ・テストの構成概念 (The concept of test constructs)
- ・テスト細目 (Test Specification)
- ・リーディングテスト (Testing Reading-6 basic test formats-)

- ・リスニングテスト (Testing Listening)
- ・ライティングテスト (Testing Writing)
- ・スピーキングテスト (Testing Speaking)
- ・語彙・文法テスト (Testing Vocabulary & Grammar)
- ・測定の標準誤差 (Standard Errors of Measurement)
- ・効果量とは？ (What is the 'Effect Size'?)
- ・学習に役立つテスト結果の報告 (Test result reporting to enhance learning)
- ・古典的テスト理論 (Classical Test Theory)
- ・確認的因子分析 (Confirmatory Factor Analysis)
- ・メタ分析 (Meta-Analysis)
- ・質的方法 (Qualitative Methods)

- ・Workshop 1-1 初めて学ぶ効果量－入門編 (スライド)
- ・Workshop 1-2 初めて学ぶ効果量－理論編 (スライド)
- ・Workshop 1-3 初めて学ぶ効果量－実践編 (スライド)

2017

- ・Workshop – テキストマイニングを使った自由記述式アンケートの分析

2019

- ・Workshop – ベイズ統計とその外国語教育研究への応用 (前半)
- ・Workshop – ベイズ統計とその外国語教育研究への応用 (後半)
- ・配布資料

ワークショップ・ビデオ (主に日本語)

2014

- ・Workshop 1 – CAT の基本的な考え方 (スライド)
- ・Workshop 2 – J-CAT (スライド 1, スライド 2, スライド 3)

2015

- ・Workshop 1 – テストデータ分析入門 (in English)
- ・Workshop 2-1 – 生徒の力を伸ばす定期テストの作り方－妥当性と信頼性に留意して (スライド)
- ・Workshop 2-2 – How to Develop Tests that Improve Students' English Proficiency (スライド)

2016

(8) その他

- 会員情報や会費納入状況の確認・修正ができる「マイページ (<https://www.bunken.org/jlta/mypage/Login>) 」はご利用いただいておりますでしょうか。ログインに必要な会員番号やパスワードを紛失された方は以下からお問い合わせください (<https://www.bunken.org/jlta/mypage/Contact>) 。マイページ内の会員向けページにおいて、ジャーナル・ニュースレター等の掲載があります。
- 所属や書類発送先など登録情報に変更がある場合、マイページでの登録情報の変更を3月末までお願いいたします。学生会員の方には、毎年学生証のコピーをご提出いただいております。
- 2019・2020 年度の会費振込について、これからの方は早急によりしくお願いいたします。2019 年度分のお支払いがない場合には、2021 年 4 月より送付物の発送や電子メール

の配信がなくなり、マイページの使用もできなくなります。

- 直近 2 ヶ月の間にメールを受信していない会員の方は、JLTA のメールがスパムメール扱いになっていないかご確認ください。
- 本会の退会を希望される方は、事務局 (jlta-post@bunken.co.jp) へご連絡をお願いいたします。

文責：

JLTA 事務局長 横内裕一郎 (弘前大学)
JLTA 事務局次長 小泉利恵 (順天堂大学)
藤田亮子 (順天堂大学)

日本言語テスト学会 (JLTA) 公式
Twitter アカウント: @JLTA_official
https://twitter.com/JLTA_official

Messages from the Secretariat

We are thankful for your support of and commitment to JLTA's activities. Please send us any comments or inquiries you may have. Please see our English website for more details:

http://jlta2016.sakura.ne.jp/?page_id=599

- (1) Due to the spread of COVID-19, the annual conference has been postponed to December 2020 and will be held remotely (using Zoom). Please note that no workshops or symposia will be held this year. In addition, we are now accepting applications for presentations. Please see below for details.

Date and time: Saturday, December 12, 2020

Location: Online (using Zoom)

Theme: The Past, Present, and Future of Language Testing

Deadline of Call for Paper: Thursday, October 15, 2020

Conference Details: We will let you know as soon as it is fixed.

Fee: Free of charge

Application for participation: To be announced as soon as it is decided.

- (2) The JLTA research meeting will be held on November 22nd, 2020 and February 14th, 2021.

The 51st JLTA Research Meeting

Platform: Zoom

Theme: Improving scoring methods in English speaking assessment (Part 1)

Language: English

Abstract: Second language speaking assessment involves a variety of factors, in particular, tasks, rubrics, and scoring. This meeting focuses on scoring methods and invites researchers who are intensively involved with English speaking assessment in various contexts including high-stakes and classroom assessment. We will learn from various practices and challenges in each context and discuss how English speaking assessment should be conducted in Japan.

Capacity: 150 participants (due to Zoom connectivity; 80 for JLTA members; the remaining 70 for non-JLTA members; determined on a first-come, first-served basis)

Host: Japan Language Testing Association (<http://jlta.ac>)

Co-host: Rie Koizumi Kaken Project (supported by the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) KAKENHI, Grant-in-Aid for Research (C) Grant Number 20K00894; “Development of scoring guidelines for ensuring rater reliability in L2 English classroom speaking assessment at senior high schools in Japan”;

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20K00894/>)

Presenters: Jason Fan (University of Melbourne, Australia), Jin Yan (Shanghai Jiao Tong University, China)

Martin East (University of Auckland, New Zealand)

Chris Davison (University of New South Wales, Australia)

Details such as title of presentation are provided by JLTA official website and e-mail.

Registration fee: Free

Registration: Please register on the following site by November 14 (Saturday).

<https://forms.gle/KFmH9wg4g5TZEq3h7>

Contact information: Makoto Fukazawa (University of the Ryukyus)
ves05671@nifty.ne.jp

The 52nd JLTA Research Meeting

Platform: Zoom

Theme: Improving scoring methods in English speaking assessment (Part 2)

Language: Japanese

The information for this research meeting is provided in Japanese on our website (http://jlta2016.sakura.ne.jp/?page_id=21). Please visit the link for additional details.

- (1) Vol. 23 of the JLTA Journal will be published this winter. This volume will be uploaded on to J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jltajournal>) along with previous volumes.

The *JLTA Journal* invites various contributions that include studies related to evaluation in a broader sense, such as classroom-based practice and program assessments that deal with issues and topics on testing and assessment.

- (3) We introduced an “Online Submission and Review System” from the academic year 2019. This system is organized by the International Academic Publishing Co., Ltd., which JLTA has commissioned part of JLTA’s administrative work since 2014. Within this system, all submission and review processes will be recorded online. Furthermore, to improve the JLTA Journal’s quality, submitted manuscripts will be checked for plagiarism using a

database of published articles and for anonymity using human resources.

Details about JLTA Online

Submission and Review System

1. Website

<https://iap-jp.org/jlta/journal/login>

2. Submission period in 2021

We accept submission only during the following period:

April 7, 2021 to March 7, 2021

3. The Guidelines for Contributors and Templates

The Guidelines for Contributors to the *JLTA Journal* and Templates have been revised due to the introduction of the system and other changes. Please see and follow the latest guidelines and templates before submission.

http://jlta2016.sakura.ne.jp/?page_id=62 for details.

4. Contact information of the JLTA

editing office: jlta-
edit@bunken.co.jp

(4) In 2017, we started the **JLTA Training Lecturer Dispatch project**, which aims to send a JLTA lecturer to institutions and organizations for conducting training sessions or meetings on test development and use. The list of lecturers was updated in April, 2020. Please feel free to convey this information to those who

may be interested.

Website:

<http://jlta2016.sakura.ne.jp/?p=929>

(5) J-STAGE

With regard to the access numbers from around the world to *JLTA Journal* articles via J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jltajournal>), between August 2019 and July 2020, 10,242 visitors accessed the *JLTA Journal* page and 11,695 pdf files were downloaded. In the previous year, the numbers were 5,202 and 5,727, respectively, indicating an increasing interest in the journal. Retrievals from the U.S. are much more common than from other countries or regions, and the number of domestic Japanese users is on an upward trend. Readers from China, the U.K., Korea, and other countries maintained a steady interest in the *JLTA Journal*.

(6) Our website has various, useful contents for the public, and the Web Publication Committee created or organized them. Since some contents are in English, we hope you use them to the fullest.

WORKSHOP VIDEO/WEB TUTORIAL Tutorial (in Japanese)

- What is a “good” test?: Validity, reliability, and practicality
- The concept of test constructs
- Test Specification

- Testing Reading-6 basic test formats-
- Testing Listening
- Testing Writing
- Testing Speaking
- Testing Vocabulary & Grammar
- Standard Errors of Measurement
- What is “Effect Size”?
- Test result reporting to enhance learning
- Classical Test Theory
- Confirmatory Factor Analysis
- Meta-Analysis
- Qualitative Methods

- Practices (Theoretical Guide)
- Workshop 1-3 – Introduction to Effect Size: Basic Concepts and Practices (Practical Guide)

2017 (in Japanese)

- An Analysis of Free Descriptive Questionnaire by Text Mining

2019 (in Japanese)

- Bayesian Statistics and its Application to Foreign Language Education Study
- Handouts

Workshop Videos

2014 (in Japanese)

- Workshop 1 – Basic Concepts of CAT
- Workshop 2 – J-CAT

2015

- Workshop 1 – Introduction to Test Data Analysis (in English)
- Workshop 2-1 – How to Develop Tests that Improve Students’ English Proficiency (in Japanese)
- Workshop 2-2 – How to Develop Tests that Improve Students’ English Proficiency (in Japanese)

2016 (in Japanese)

- Workshop 1-1 – Introduction to Effect Size: Basic Concepts and Practices (Beginning Guide)
- Workshop 1-2 – Introduction to Effect Size: Basic Concepts and

(7) Other information

- Have you visited the “My Page” site (<https://www.bunken.org/jlta/mypage/Login>), where you can check and modify your membership information and check your yearly membership fee payment status? Please contact us (<https://www.bunken.org/jlta/mypage/Contact>) if you need your membership number and password, which are necessary details for the login. You can access recent *JLTA Journals*, previous newsletters, and other materials specifically for members on the “My Page” site.
- If you have changes in your affiliation, address, and other information, please update your registered information on “My Page” by the end of March. We annually send student members a message asking them to submit a copy of a student certificate.

- If you have not yet paid the yearly membership fee for 2019 and 2020, please do so at your earliest convenience. If you do not pay the fee for 2019, you will receive no shipment or email message from JLTA and will not be able to use the “My Page” site after April 2021.
- If you have not received emails from JLTA for the last 2 months, your email accounts may classify our email as spam. If so, please check the settings of your email account.
- If you plan to leave JLTA, please let us know by sending a message to jlta-post@bunken.co.jp

JLTA Secretary General
Yuichiro YOKOUCHI

(Hirosaki University)

JLTA Vice Secretary General
Rie KOIZUMI (Juntendo University)
Ryoko FUJITA (Juntendo University)

JLTA Official Twitter account:

@JLTA_official

https://twitter.com/JLTA_official



日本言語テスト学会事務局

〒036-8560 青森県弘前市文京町 1

弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター

横内裕一郎研究室(郵送時には必ず研究室名を明記してください)

TEL: 0172-36-2111(代表)

e-mail: u16yoko@gmail.com

URL: <http://jlta.ac>

編集： 広報委員会

委員長 宮崎啓 (東海大学)

副委員長 古賀功 (龍谷大学)

委員

笠原究 (北海道教育大学旭川校)

土平泰子 (聖徳大学)

長沼君主 (東海大学)

<編集後記>

今回はコロナ禍のため、セミナー報告や海外学会報告を載せることができませんでした。が、巻頭言にて平井先生より前向きなお言葉をいただき、元気を取り戻したところです。第2波が来ても皆様が笑顔で健康に過ごせることを心よりお祈りいたします。(KM)

次のような原稿を募集しておりますのでどうぞお寄せください。1) 海外学会報告, 2) 書評, 3) 研究ノート, 4) 意見, またその他当学会員の興味関心に沿うもの。